

令和7年度 学校評価

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ わからない

(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		考察
1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進 学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に努めていると思いますか。 (感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にすること、子どもの体力向上、基本的な生活習慣など)	2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進 学校は、子どもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。	1 に関しては、肯定的な評価が9割を超え、概ね「豊かな心と健やかな体を育む」実践に対して理解が得られていると考える。今後も、より一層心と体の一体的な教育を推進していく。2に関しては、肯定的な評価が保護者、教職員とも8割を超えているが、児童のみ8割を切っている。児童の結果は昨年度の7割弱から上がっていることから、次年度も引き続き「自分から取り組む」ことができるような授業改善を行っていく必要がある。
(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		
3 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進 学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりすることの育成に、取り組んでいると思いますか。(児童会・生徒会活動、学校のきまり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイストライ(中学校)など)	3 に関して、保護者、教職員ともに肯定的な評価が8割以上で、実践が評価されていることが分かった。しかし、児童の肯定的な評価が5割を少し超える程度で留まった。これは、自分たちの学習活動や学校生活での体験等が学級や将来の地域社会をよりよくするために繋がっているという意識までには高められていないからだと考えられる。児童が「自分の力で学級(社会)を変えられる」という意識を持つことができるように、学級活動や委員会において、議題の立案から運営まで児童に委ねるような場を設けるなど、学校全体で取り組んでいく必要がある。	
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
4 5 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 学校は、子どもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。	4 に関して、児童、教職員ともに肯定的な評価が8割以上で、概ね個別最適な学びの実践ができていると考える。しかし、保護者が7割弱だったことから、学級懇談会や通信等で学校での実践を丁寧に伝えていく必要がある。5 に関して、肯定的な評価が8割を超えている。これは、校内研修の柱の1つでもあり、教員が日々の授業で対話を重視しながら授業づくりを行っているため、児童、保護者にも伝わっているからだと考える。	
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
6 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実 学校には、子どもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。	7 インクルーシブ教育の推進 学校では、子どもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。	
		6 に関しては、肯定的な評価が8割を超えており、学校の支援体制が概ね認められていると考える。しかし、保護者や児童からは一部否定的な評価もあるため、児童の困りごとを後回しにせず、迅速に対応することができるようチーム体制で支援ができるようにしていく。7 に関して、概ね8割以上が肯定的な評価であるが、互いに尊重し合う風土をつくっていくために、人権学習や日々の生徒指導などを大切にして教育を行っていく。

(3) 最適な教育環境の整備																																		
8 安全・安心な園づくりの推進	9 地域や家庭と連携した教育環境の整備																																	
学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。	学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。	8 に関しては、肯定的な評価が9割を超えており、昨年に比べ保護者、児童ともに評価が向上している。教育活動の様々な場面での安全管理、安全教育等の理解が得られていることが分かる。今後もさらに推進していく。9 に関しては、肯定的な評価が8割を超え、この項目でも昨年に比べ保護者、児童ともに評価が向上している。様々な地域の方と連携した授業を行う中で、児童も普段はできないことを体験することができ、学ぶ楽しさを実感できているのだと考える。																																
<table border="1"> <caption>Item 8 Evaluation Data</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Positive (%)</th> <th>Neutral (%)</th> <th>Negative (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>92</td> <td>8</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>88</td> <td>12</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>95</td> <td>5</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Positive (%)	Neutral (%)	Negative (%)	保護者	92	8	0	児童生徒	88	12	0	教職員	95	5	0	<table border="1"> <caption>Item 9 Evaluation Data</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Positive (%)</th> <th>Neutral (%)</th> <th>Negative (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>82</td> <td>18</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>78</td> <td>22</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>85</td> <td>15</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Positive (%)	Neutral (%)	Negative (%)	保護者	82	18	0	児童生徒	78	22	0	教職員	85	15	0	
Category	Positive (%)	Neutral (%)	Negative (%)																															
保護者	92	8	0																															
児童生徒	88	12	0																															
教職員	95	5	0																															
Category	Positive (%)	Neutral (%)	Negative (%)																															
保護者	82	18	0																															
児童生徒	78	22	0																															
教職員	85	15	0																															

(4) こどものいのちと権利の擁護																		
10 こどもの最善の利益を守る環境づくり																		
学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。		肯定的な評価が8割を超えており、特に児童の評価が昨年度の7割から8割に向上している。これは、担任による日々の声かけや教育相談だけでなく、養護教諭やSCなどが連携し、児童がいつでも安心して相談できるよう支援体制を整えているからだと考える。しかし、保護者の中には、一部否定的な評価があることから、何が不十分だったかを検証し、児童や保護者が気軽に相談できるよう体制を見直していく必要がある。																
<table border="1"> <caption>Item 10 Evaluation Data</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Positive (%)</th> <th>Neutral (%)</th> <th>Negative (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>85</td> <td>15</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>88</td> <td>12</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>92</td> <td>8</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Positive (%)	Neutral (%)	Negative (%)	保護者	85	15	0	児童生徒	88	12	0	教職員	92	8	0		
Category	Positive (%)	Neutral (%)	Negative (%)															
保護者	85	15	0															
児童生徒	88	12	0															
教職員	92	8	0															

独自項目																																		
独自項目1	独自項目2																																	
子どもは、友達や地域の人に進んであいさつをしていると思いますか。	子どもは、先生や友達と対話したり、かわり合いながら学習していると思いますか。																																	
<table border="1"> <caption>Independent Item 1 Evaluation Data</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Positive (%)</th> <th>Neutral (%)</th> <th>Negative (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>45</td> <td>55</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>55</td> <td>45</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>65</td> <td>35</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Positive (%)	Neutral (%)	Negative (%)	保護者	45	55	0	児童生徒	55	45	0	教職員	65	35	0	<table border="1"> <caption>Independent Item 2 Evaluation Data</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Positive (%)</th> <th>Neutral (%)</th> <th>Negative (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>48</td> <td>52</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>52</td> <td>48</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>62</td> <td>38</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Positive (%)	Neutral (%)	Negative (%)	保護者	48	52	0	児童生徒	52	48	0	教職員	62	38	0	「あいさつ」については、教職員だけ5割に留まり、保護者と児童との差が大きい。自分からあいさつができていない児童や地域の方にあいさつができていない児童が少なく教職員からも課題として挙げられているので、今後も指導を継続していく。「学び合い」は肯定的な評価が9割を超えているので、実践を深めていきたい。
Category	Positive (%)	Neutral (%)	Negative (%)																															
保護者	45	55	0																															
児童生徒	55	45	0																															
教職員	65	35	0																															
Category	Positive (%)	Neutral (%)	Negative (%)																															
保護者	48	52	0																															
児童生徒	52	48	0																															
教職員	62	38	0																															

独自項目3																		
独自項目3																		
子どもは、学校の行事に積極的に参加していると思いますか。																		
<table border="1"> <caption>Independent Item 3 Evaluation Data</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Positive (%)</th> <th>Neutral (%)</th> <th>Negative (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>82</td> <td>18</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>85</td> <td>15</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>88</td> <td>12</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Positive (%)	Neutral (%)	Negative (%)	保護者	82	18	0	児童生徒	85	15	0	教職員	88	12	0		学校行事に関しては、肯定的な評価が8割を超えていた。また、児童の評価も1割ほど上がっており、行事に対して前向きに取り組むことができるような教員の支援があったことが分かる。次年度も、児童一人ひとりのよさが発揮できるよう、行事の内容を精選し、主体的に取り組むことができるよう計画を進めていく。
Category	Positive (%)	Neutral (%)	Negative (%)															
保護者	82	18	0															
児童生徒	85	15	0															
教職員	88	12	0															

来年度の具体的な取組について

すべての項目において、昨年度の結果から向上していることから、本年度の取り組みが一定の評価を得ていることが分かる。一方で、昨年度の評価と変わらなかったり、立場によって差の開きが大きかったりする項目が見られる。上記の各評価項目の考察を踏まえ、全教職員で今年度の取り組みを振り返り、次年度へ生かしていく。具体的には、以下の点についてさらに改善を加え取り組んでいく。①「豊かな心と健やかな体を育む教育」について、児童が自ら考えたいと思うような授業にすることも、子どもの思いや願いを大事にした課題設定や教材の面白さを感じられるような教材開発を校内研修を通して行っていく。②社会の形成や持続発展的に主体的に貢献する力を育むために、児童が目的をもって活動に取り組み、一人ひとりが活躍できる場を設けるといったことを年度当初に共通理解し、実践を積み重ねていく。③「個別最適な学び」「インクルーシブ教育」について、学校での取り組みを地域や保護者に積極的に発信し、協力を呼び掛けながら実践を続ける。

小中学校関係者評価

学校評議員による学校評価の結果から、すべての項目において肯定的な評価をいただいております。学校教育に対する理解が得られていると考える。また、授業を参観されて、「児童が落ち着いて学習に取り組むことができている」と、児童の学びに向かう姿を評価いただいた。地域での児童の姿について、あいさつは以前よりも良くなっており、礼儀正しいということであった。地域の行事にも積極的に参加している児童も多いようである。しかし、自分で考えたり、行動したりすることが苦手だと感じるといったことや、言われなければ動かないこと、リーダーシップを発揮し周りに指示を出す児童が減っていることが課題として挙げられた。課題を改善していくために、例えば校則の見直しのように、児童が主体となって話し合う機会を設けることが大事だと意見をいただいた。そうすることによって、自分たちの力で校則を変えられると実感できるとともに、いろいろな視点で考える力も身につく。このような意見を取り入れながら学校経営を推進していきたい。